

【 浅井春夫プロフィール 】

(2017年2月現在)

1951年8月、京都府南丹市生まれ。日本福祉大学大学院(社会福祉学専攻)を修了。
東京の児童養護施設で12年間、児童指導員として勤務する。

家族は、パートナーと(子ども3人)&犬1匹&ネコ3匹

立教大学コミュニティ福祉学部教員(2017年3月定年退職)

専門分野は、児童福祉論、セクソロジー(人性学)、戦争孤児の戦後史研究

とくに社会福祉政策論、児童福祉実践論、性教育、子ども虐待・貧困を重点課題としている。

【所属学会・研究団体、社会的活動など】

“人間と性”教育研究協議会代表幹事、『季刊SEXUALITY』編集委員、全国保育団体連絡会副会長、日本思春期学会理事、「戦争と福祉」をみんなで考える会代表呼びかけ人、安全保障法に反対する立教人の会共同代表・呼びかけ人、「戦争孤児たちの戦後史」研究会代表運営委員、NPO法人学生支援シェアハウスようこそ理事・事務局長

【単著書】(2002年以降の著書)

『子ども虐待の福祉学』(小学館、2002年)
『市場原理と弱肉強食の福祉への道』(あけび書房、2002年)
『子どもの権利と「保育の質」』(かもがわ出版、2003年)
『「次世代育成支援」で変わる、変える子どもの未来』(山吹書店、2004年)
『子どもの性的発達論入門』(十月舎、2005年)
『子どもを大切にす国・しない国』(新日本出版社、2006年)
『保育の底力』(新日本出版社、2007年)
『ヨカッタさがしの子育て論』(草土文化、2007年)
『社会保障・保育は「子どもの貧困」にどう応えるか』(自治体研究社、2009年)
『脱「子どもの貧困」への処方箋』(新日本出版社、2010年)
『沖縄戦と孤児院』(吉川弘文館、2016年3月)
『戦争をする国・しない国』(新日本出版社、2016年4月)
『子どもの貧困解決への道—実践と政策へのアプローチ』(自治体研究社、2017年2月)
『幼児期にしたい性のお話』(エイデル研究所、2017年4月刊行予定)

【編著書】(2007年以降)

監修『児童福祉施設・保育所 子どもの危機対応マニュアル』(建帛社、2007年)
編著『子どもと性』(日本図書センター、2007年)
共編『希望としての保育』(新読書社、2007年)
共編『子どもの貧困』(明石書店、2008年)
共編『保育者と保護者ではくむ「対話のちから」』(かもがわ出版、2008年)
共編『新版 保育者・教師のための子ども虐待防止マニュアル』(ひとなる書房、2008年)
浅井春夫・金澤誠一共編『福祉・保育現場の貧困』(明石書店、2009年)
浅井・杉田・村瀬共編『性の貧困と希望としての性教育』(十月舎、2009年)
浅井・丸山共編『子ども・家族の実態と子育て支援』(講座第3巻、新日本出版社、2009年)
浅井・渡辺共編『保育の質と保育内容』(講座第2巻、新日本出版社、2009年)
編集委員会編『子どもの貧困白書』(明石書店、2009年)
浅井・高橋光幸・中村強士共編『保育・子育て政策づくり入門』(自治体研究社、2010年)
編著『子ども家庭福祉』(建帛社、2011年)
浅井編著『児童福祉施設・児童相談所・学校子どもの暴力対応実践マニュアル』(建帛社、2011年)
浅井編著『はじめよう！性教育』(ポーターインク、2012年)
共編『あっ！ そうなんだ！ 性と生～幼児・小学生そしておとなへ～』(エイデル研究所、14年)
浅井・吉葉研司共編『沖縄の保育・子育て問題』(明石書店、2014年)
浅井ほか著『戦争と福祉についてボくらが考えていること』(本の泉社、2015年)
浅井ほか著『子どもの貧困の解決へ』(新日本出版社、2016年)
浅井ほか監訳『国際セクシュアリティ教育ガイドンス』(明石書店、2017年2月刊行予定)